

第四回 昭和橋景観検討委員会 議事録

令和元年7月23日（火）18:00～20:00

住田町役場 1F 町民ホール

【司会（次長）】

それでは、定刻となりましたので、只今から第四回昭和橋景観検討委員会を開会いたします。私は、本日司会を務めさせていただきます、住田整備事務所次長の佐々木と申します。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、事務局を代表して、住田整備事務所、所長の佐藤より御挨拶申し上げます。

【所長】

本日は大変ご多忙のところ第四回昭和橋景観検討委員会にご出席いただき深く感謝申し上げます。委員会の開会にあたり、私の方から一言ご挨拶させていただきます。

まず委員の皆様におかれましては、大変ご多忙のところ委員会にご出席いただき、深く感謝申し上げます。昭和橋景観検討委員会はこれまで3回開催され、委員の皆様の大変貴重なご意見を基に、1車線2歩道の整備、周辺との調和に配慮した住田らしい素朴さなどを意識するデザインが望ましいということを取りまとめてきたところがございます。本日の委員会では、これまでのご議論いただいた内容を基に、護岸の構造や橋詰空間、橋梁付属物のデザインなどについて提案したいと考えております。事務局といたしましても様々な課題をクリアしながら作成したものを提示させていただきますので、委員の皆様方の忌憚のないご意見を伺いたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

【司会】

本日、南雲委員は欠席でございます。議事に入る前に配布資料の確認をさせていただきます。委員会次第、委員名簿、配置表、パワーポイント説明資料を委員の皆さまのお手元にお配りしております。

それでは議事に入らせていただきます。当委員会の規約第6条の第2項によりまして、委員長が議長を務めることになっておりますので、以後の議事進行につきましては、柴田委員長にお願いしたいと思います。柴田委員長よろしくお願いいたします。

【柴田委員長】

承りました。令和の時代に入って1回目の委員会になり、気持ちも新たに皆様にご協議いただきたいと思います。前回から今回までの間、前回までの意見を踏まえて事務局では、かなり作業、調整をしていただいた案が今日出てきているということで、まず頑張っていたことに感謝申し上げます。

では早速議事の方に入っていきたいと思います。1番目構造物、護岸デザインの提案について事務局の方から説明よろしくお願いいたします。

【事務局】

本日の構成

設計プロセスとスケジュール

河川のデザイン

橋台位置の変更

河川平面計画

護岸の構造・形状・素材 アンカー式空石積

1:0.5 部分

なぜアンカー式空石積なのか。コンクリート製、練石積は職人がいない、適用することが難しいため。

転落防止柵 透過性の高い、ダークブラウン

1:1.5~2.0 部分

ブロック張は自然景観の中には硬すぎる。

上下流区間への接続形状 形と形式が合わない

根固工 捨石

河床安定化工

橋詰空間

左岸橋詰空間 橋台横平場の高さの比較、橋詰への高木植栽の配置の比較

右岸橋詰空間 サクラの新植、旧橋の高欄利用（転落防止柵もしくはベンチとして）

【柴田委員長】

橋台位置の変更についてご意見、ご質問等、ございますでしょうか。

【委員】

概ね内容は問題ないと思うが、1点確認させていただきたいのは、橋台を4.5m動かすと親柱の位置も4.5m変わるのか。車で通るとき、取り留めなく乗り入れたりすることはないか。設計に工夫が必要なのかなと思ひまして。

【事務局】

同様に4.5mから5m動くことになる。親柱の位置はウィングの先端において高欄端部を抑えるようにしたい。転落する恐れのないところに、高欄を伸ばすのもどうかと思うので、現状のこの位置にしている。土でアンジュレーションを付けたり、低木を入れたりすることで、車が入りにくいように設計で配慮する。

【委員】

親柱と河川管理用通路の間に柵がないと急に坂になっていて過って、子供が滑り落ちたりしないのか。

【事務局】

勾配 1:2 以下で考えている。親柱の手前から足を踏み入れてしまわないように平場の位置と親柱の位置を被せるなど工夫が必要だと思っている。

【委員】

口だけではよくわからないので、机の上で実際に勾配を作ってみてはどうか。(1:2 勾配を表現) 勾配としてはかなり緩い。

【柴田委員長】

夏場はいい遊び場になりそう。冬場では心配かもしれない。もう少し検討を深めてください。

【委員】

橋台の位置の変更によって、川幅はどのくらい変わるのか。治水対策として川幅が狭くなるということはないか。

【事務局】

川幅としてはほぼ変わらない。橋脚が少なくなることで、阻害率は改善される。

【委員】 川幅が変わらないということであれば嬉しい。

【柴田委員長】

治水対策を前提に検証いただいているので大丈夫だと思います。

【柴田委員長】

護岸の構造は、アンカー式の空石積ということですが、転落防止柵のイメージなど、接続形状や根固めなどご意見いかがでしょうか。

【委員】

連結自然石空張りということで自然石を使った提案は将来にわたって景観だけでなく水生生物環境に対しても素晴らしい提案ではないか。護岸だけでなく、根固めなども捨石とし、住田町の切り石を有効に使って、魚類の生息環境としてもいいことだと思っている。

【柴田委員長】

お褒めの言葉をいただいたということでよろしいでしょうか。

【委員】

将来的に空石積では石の間に土が入ったり、植物が生えたりして、蜚の生息環境としても期待できるのででしょうか。河床安定化、根固工がレイアウトなどどんな按排でできるのか、考え方を教

えていただきたい。

【事務局】

基本的には石をかみ合わせないといけないため、隙間は多くはないが、他の案と比べれば、若干多く、期待ができないわけではない。

根固工も河床安定化工も同じ捨石であり、捨石で組み上げた根固工の所々が角のように出っ張っているというイメージをもっていただければと思う。配置は、上下流の気仙川の流れを見た中で、瀬淵の自然な配置を踏まえた上で、検討したものです。

【柴田委員長】

アンカー式空石積となったことで、風格のあるいい風景となると思うが、可能であれば、施工上の留意点として普通の石積みのように、大きいサイズの石は下層に配置、上の方ほど小さくなるような石の配置を可能な限り留意してもらいたい。

【柴田委員長】

少し議論が必要なものは、左岸の橋詰空間についてどちらの案がいいか。第1案だと蔵並の前にオープンスペースができるのがよいのか、第2案の平場ができたほうがいいのか等。少し気になったのが第1案の空いているスペースに無断駐車が出てきてしまうのではないかと。

【委員】

第1案だと車が入りやすくなってしまふ、利便性よりも地域の風景に溶け込んだヒューマンスケールの橋梁の幅員とした背景があるのに、接続する道路が変に広がってしまいアンバランス。人が語らう空間があった方がよい。安全に配慮した工夫があれば、第2案の方がいいと思う。

【委員】

管理者の方々にお聞きしたいが、実際に管理用車両はどのくらいの頻度で通るのか。今後隅切りやRを工夫するだけで車が通りやすくなることは可能なので、実際の管理者としての使い方が橋の方に曲がることは将来的に必要なのかということを含めて検討いただきたい。

【事務局】

管理用車両がここを頻繁に通ることはない。隅切りなどを設けると一般の車両も頻繁に通ることになってしまうので、今まで通りの使い方となるようにしたいと思っている。

【柴田委員長】

第2案の方が、少し下がったところに子供たちが集まって、折角きれいになった橋を角度の違うところから眺める場所としても機能するので、いいのではないかと。

【委員】

第2案がいいのではないかと。河川に近い方がいいのではないかと。思う。

【柴田委員長】

高木はあった方がいいのではないかと。思うが、何かご意見ありますか。

【委員】

木はあった方がいいとは思いますが、根が悪さをしないか、サクラは横に根を出すので、路面を持ち上げたりしないか、樹種としてサクラがいいのか。何か住田らしいものなどないか。

【事務局】

サクラを想定。サクラの根鉢の大きさ以上は広がりづらいというのが一般的。他の樹種に対しては即答することは難しいので、地元の方々にお聞きしたい。

【委員】

サクラは昭和会の先輩（多田さん）が植えたと記憶している。サクラが適しているのではないかと。思っている。

【柴田委員長】

右岸の橋詰空間について、旧橋の高欄利用など転落防止柵やベンチで使うという提案があるが、ご意見いかがでしょうか。

【委員】

転落防止柵またはベンチにしても再利用するということは非常にいいことだと思ふ。今まで愛されてきた橋の高欄が形を変えても残ることは素晴らしいことだと思ふ。

【柴田委員長】

高欄の銃弾跡を残すようにした方がいいのか。そこまでこだわらないで頑丈なところを残すということでもいいか。

【委員】

あの穴にカメラをおいて写真を撮ると蔵並がちょうど3棟くらいすっきりと映り込む。まち歩きではその穴について力を入れて説明しているので、穴を何らかのかたちで残してもらいたい。

【委員】

遺構という形で残すことがいいとは思いますが、遺構としてベンチで座ってしまうのはどうかと思うので、転落防止柵とした方がいいのではないかと。高さ、長さを調整いただきたい。

【委員】

旧橋の高欄を再利用するのは大賛成だが、親柱はどうか。最後壊すまでは、どこかで利用が考えられるかもしれないので、検討を継続いただきたい。

【事務局】

新しい親柱と近接してイメージが被り、散漫になるところがあるので、旧橋利用は高欄のみとしたらシンプルでいいのではと思っている。

【柴田委員長】

親柱については継続的に検討いただきたい。ランドスケープデザインのひとつの要素としての可能性もあると思うので。

【委員】

右岸の上流側のスロープを降りた現在の河川敷は、橋自体が高くなることで、どのくらい変わるのか。上流の公園に増水すると水が入ってくる状況があり、そこも併せて変えられないのか。

【事務局】

スロープの勾配が緩くなり、長くなるが擦り付く先の高さは変わらない。河川敷、上流の公園も30年に1度の確率に対応できるよう、水が入らないように河川整備されることとなります。今回の橋梁の計画とは別で、河川整備計画は進んでいます。

【柴田委員長】

旧橋利用は、実際の状態にもよるが、転落防止柵の1案で進めていく。左岸側は2案で。

【事務局】

橋梁、付属物のデザイン

上部工 フェイシア、下部工 橋台形状、橋脚形状

高欄、照明

排水、歩車道境界ブロック

親柱、照明

歩道のすりつけ ハンプ

その他 仮橋位置、架空線がなくなる

【柴田委員長】

スレンダーに見せる工夫、橋梁付属物（橋脚、排水、照明）に関する事、親柱3案でているので、これに関するご意見いかがでしょうか。

【委員】

親柱は第1案が個人的にはいいと思うが、昼間は親柱の上の行燈の部分はどんな素材でどう見えるのか。他の案も同じか。

【事務局】

スチールでフレームを組み、アクリルを張り込むような形で、昼間では乳白色に見えてくる。

【柴田委員長】

私も第1案がいいと思うが、たしかに昼間の存在感、見え方は大事だと思う。

(かなり緻密に検討いただいているので、特に問題ないかと思う)

【委員】

歩道のすりつけは非常に大変だったと思うが、車椅子で8%は上がることはできない。6%でも怖い。その中で5%の歩道勾配とし、ハンプをつけて一連の中で納めることができたのはよかったと思う。

【委員】

親柱は第1案を支持する。役場側から見て、明るく見えるような様子が想像でき、安全面でもいいと思う。排水も第2案で進めていただきたい。橋脚はどの案も構造上問題ないということでもいいか。

【事務局】

橋脚はどの案も構造上問題ありません。

【委員】

橋梁端部の下のところ、橋台前の空間はどうなるのか。安全面などはどうなっているか。

【事務局】

60cmくらいの空間、空隙がある。一般的には入れないように柵を設置することを検討していきます。維持管理上、点検などで入れるようにしておきたい。

【委員】

これまで経験したことのない雨が降ることも想定して、排水管は短くしてということではできないのか。

【事務局】

寒冷地において融雪剤を使用する都合上、その塩分が排水と一緒に吹き上がり橋梁を腐食させる原因となり、また排水管の出の長さは基準があるため、なかなか短くすることはできない。

【委員】

鋼製の排水溝は塗装など融雪剤に対して問題ないのか。

【事務局】

SGメッキという塗装で、耐久性の高いものを想定しています。

【委員】

この整備の中で、子供たちへの親水空間などはできないのか。役場側の交差点のところの外灯はどうなるのか。

【事務局】

スロープ、階段で川に近づくことはできる。外灯については、現状復旧として交差点照明として必要なものを設置する予定です。

【委員】

仮橋の位置について、通学路として安全な位置となっているか。増水して通行止めとなるようなことや車両の通行なども考慮していただきたい。

【司会】

次回の日程は10月10日18:00からを予定したいと思います。

【司会】

以上を持ちまして、委員会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。